

●分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者の思いや悩み・子どもへの支援方法について、児童発達支援計画の確認の際に丁寧に聞き取りを実施するとともに、送迎時のやりとりや、クラス前のホワイトボード掲載、連絡ノート、はぐノートの会、必要に応じた個別面談など、いろいろな機会に共有できるようにしています。	家庭での様子や、登園時の様子を毎日丁寧に伝え合う中で、子どもの姿を共有し、同じ絵を描きながら支援をすすめていけるようにしています。 センターからの報告や提案だけでなく、保護者と課題や悩みを共有する中で、一緒に結論を導き出せるよう、聞き方や話し方を意識しています。	児童発達支援管理責任者やグループ担任、個別訓練担当などの「担当者」はもちろんのこと、センター内の他の職員に相談しても、同じ視点で相談を受け支援を考えていけるよう、職員間連携を密に行っています。
2	保育士、訓練士、発達相談員、看護師、栄養士などの専門職が配置されているため、様々な視点から子どもの成長を考えていくことができます。	専門職同士で集まり深く話していく機会や、多職種同士が集まり横の連携をとっていく機会を頻回にもつ中で、子ども理解が深まり、よりよい発達支援につなげられるよう意識しています。	業務内容の異なる多職種が集まり、会議を持つためには時間確保の工夫が必要であるため、会議の時間や回数について、職務内でより充実したものにしていけるよう、目的や内容等を年度ごとに再考していきます。
3	保護者向け子育て教室を月1回以上実施し、外部の講師も招きながら「各訓練の内容」「支援制度」「進路」「先輩保護者の話」「医療機関との連携」など、様々な視点で子育てについて学ぶ機会を設けています。	前年度の保護者アンケートを基にしながら、今、保護者が何を聞きたいかをイメージして内容を決めるようにしています。 基本的に親子保育の日に合わせて午後から実施しており、参加しやすい工夫をしています。	参加された保護者の方からはご好評をいただいていますので、今後は参加されなかった方の理由等も分析し、より多くの方に参加していただける環境にしていきたいと考えています。
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	元幼稚園施設であるため、施設の老朽化及び利用するこどもの状態に合った施設環境でない部分もあります。また、見た目の古さやスムーズな動線の組みにくさなどがあります。	施設の老朽化と、利用対象児童の状況に合わせて建てられた施設ではないため、その都度、利用児童に合わせた設備の工夫が必要です。	バリアフリー化はされておらず、老朽化もありますが、必要に応じた修繕や清掃、整理整頓、防虫対策を意識して行っていくこと、また、訓練士の助言による個々に合った環境整備もを行い、少しでも利用者気持ちよく施設で過ごしてもらえるように引き続き工夫していきます。

●今後の改善に向けた取り組み

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	限られた空間で、生活導線や支援方法などを工夫しながら療育をすすめています。	こどもの状態に合わせ、こどもにわかりやすい適切な環境設定を工夫していきます。
	2 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	十分とは言えないかもしれませんが、時間差を作るなどで工夫しています。 ・施設の部屋数が限られているので、部屋内にパーティションを設けたり廊下の小スペースを利用したりして落ち着ける場所を確保しています。	引き続きクラス間の連携を図り、必要に応じて環境設定を行います。
保護者等への説明	3 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	保護者会の担当職員を中心に関わっています。	現在、きょうだい同士の交流の場は設けていませんが、今後ニーズの把握等を検討していきます。
	4 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	当センター療育修了児、転園児対象に月1回園庭を開放しています。	行事開放について、現在は敷地面積も小さく実施できていませんが、令和9年度に予定している施設移転後はできることを検討していきます。
非常時等の対応	5 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	職員会議の中で、直近で起こったヒヤリハットの情報共有を行うとともに、再発防止に向けて検討しています。	ヒヤリハットの記録の徹底、ヒヤリハットが起こった時の共有の徹底に努め、職員の意識を高めていきます。
	6 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	年に2回、全職員を対象に虐待、身体拘束防止研修を実施しています。	職員間で遵守意識を高めていけるよう学習会を実施していきます。
	7 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	年度初めに全職員で研修を実施し、日常の場面を取り上げ職員間で考える場を設けています。	ケースに応じて組織的な決定をしていけるよう、定期的に会議を設けていきます。